

不足する労働力市場から見たロボット潜在需要を考察

— 2030年予測（2022年比） —

■注目6業種の不足する労働力市場（ロボット潜在需要） 2兆9,356億円（7.5倍）
～不足する労働力市場の拡大に伴い、ロボット潜在需要が増加～

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋 社長 菊地 弘幸 03-3241-3470）は、少子高齢化を背景とする労働人口の減少から不足する労働力（不足する労働人口×労働賃金）を算出し、それをロボット潜在需要として捉え、特に労働人口不足が予想される業種（飲食店、コンビニ、宿泊施設、介護施設、小売、工場）における現状と将来動向を調査した。その結果を「[労働人口不足の未来予測から見たロボット潜在需要に関する考察](#)」にまとめた。

※労働力の算出にあたっては平成27年、令和2年国勢調査、厚生労働省、総務省統計局の各種資料を参考にした

<調査結果の概要>

■注目6業種の不足する労働力市場（ロボット潜在需要）

| | 2023年見込 | 2022年比 | 2030年予測 | 2022年比 |
|------|---------|--------|-----------|--------|
| 小売 | 2,376億円 | 166.4% | 1兆 679億円 | 7.5倍 |
| 介護施設 | 1,300億円 | 142.9% | 7,250億円 | 8.0倍 |
| 工場 | 1,440億円 | 150.0% | 5,400億円 | 5.6倍 |
| 飲食店 | 440億円 | 100.0% | 5,000億円 | 11.4倍 |
| コンビニ | 147億円 | 116.7% | 667億円 | 5.3倍 |
| 宿泊施設 | 66億円 | 120.0% | 360億円 | 6.5倍 |
| 合計 | 5,769億円 | 147.2% | 2兆9,356億円 | 7.5倍 |

少子高齢化を背景に将来的に労働人口の減少が予想され、人手不足解消の一つの手段としてロボットの活用が有望視されている。現状においても人手不足は深刻な問題となっており、今後さらにロボットの導入ニーズは増えると予想される。

業種別でみると、2023年時点では小売の労働力不足が最も大きく、工場、介護施設、飲食店と続く。飲食店では調理や配膳、食器洗い、清掃用ロボットの、コンビニでは商品補充や清掃用ロボットの導入増加が期待される。宿泊施設や介護施設、小売では、商品補充や清掃、会計などほとんどの業務でロボットでの置き換えニーズが高まっている。工場では組立作業での導入が増えるとみられる。飲食店やコンビニなどでは店員がロボットの使用に不慣れであるなど、業界ごとにロボット導入に向けた課題が存在するものの、それらを解決していくことで導入ペースは速まると予想される。

<調査対象>

| 対象業種 | | | |
|------|-------|-------|-------|
| ・飲食店 | ・コンビニ | ・宿泊施設 | ・介護施設 |
| ・小売 | ・工場 | | |

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>

2023年7月～9月

以上

資料タイトル : [「労働人口不足の未来予測から見たロボット潜在需要に関する考察」](#)
体 裁 : A4判 62頁
価 格 : PDF版 330,000円(税抜300,000円)
ネットワークパッケージ版 495,000円(税抜450,000円)
発 行 所 : 株式会社 富士経済
〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目9番1号 日本橋三丁目スクエア
TEL : 03-3241-3470(代) FAX : 03-3241-3471
URL : <https://www.fuji-keizai.co.jp/> e-mail : info@fuji-keizai.co.jp
調 査 ・ 編 集 : インダストリアルソリューション事業部

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <https://www.fuji-keizai.co.jp/press/>